

カナダ研修
ISAKOS CONGRESS
2013 参加報告

Lorem Ipsum Dolor Sit Amet

研修期間 2013年5月11日～5月14日

参加者 江本 玄 院長

池田 真琴 リハビリ部部長

阿部 康兵 理学療法士

ISAKOS CONGRESS 2013

ISAKOS CONGRESS 2013

開催国、都市

カナダ、オンタリオ州トロント

開催期間

2013年5月12日～5月16日
(参加日・・・5月12日)

会場

Metro Toronto Convention Centre



ISAKOS とは・・・

*I*nternational Society of Arthroscopy,
Knee Surgery and Orthopedic Sports Medicine



理念

“関節鏡検査や膝の手術、スポーツ整形外科における教育、研究、患者ケアに対して世界的な交流と普及を進める”

1995年から2年に1度開催されおり、今回で第9回目となる。

会場



“Painful Total Knee Replacement: Diagnosis and Indication for Revision”



このセッションで各国の方がそれぞれ発表され、日本から ISAKOS PRESIDENT でもある神戸大学黒坂昌弘教授が発表されました。

TKA 後に痛みにつながる可能性がある問題を膝関節内、関節外、あるいは術中や術後など様々な場面に分け、細かく挙げておりました。また、膝関節内や膝関節外の問題、または心理的問題など、様々な痛みの原因を明らかにし、患者の QOL の低下が認められれば再置換術を選択すべきではないかとも述べておりました。

“Single and Double-Bundle ACL Reconstruction with Remnant Tissue”

北海道大学安田和則教授が座長を務められたセッションでは ACL の遺残組織に着目して発表が行われました。

ACL 再建術の問題点が何なのか？

それを解決するために考えられた手術手技、

そして遺残組織を温存した ACL 再建術の歴史。

この方法でのメリット、デメリットを組織学的、

バイオメカニクス、臨床成績などあらゆる視点からの報告がなされました。

これまでの研究で分かってきたこともあれば、まだまだ解明されていないことも数多くあり、今後も研究を続けていかなければならないとの報告でした。



その他にも外国の先生方より、TKA に関しては再置換術までの診断や膝蓋骨置換について、ACL に関しては遺残組織に着目し、より固有感覚受容器に特化した発表や解剖学的二重束再建術の臨床成績などの発表がありました。世界に発信された最先端の情報はとても貴重な情報です。そこから、自分自身がどう噛み砕き、自分のものにし、またさらに深い知識へと発展させることが必要だと思いました。

感想

池田 真琴 リハビリ部部長

今回、ISAKOSに参加させて頂き、多くの刺激を受けました。まず、世界規模の学会に参加するのは初めてで、その規模の大きさに驚きました。あたりを見渡せば、世界的に有名なビッグネームのドクターばかり・・・。

すごい所に来たんだと実感しました。

今回の学会は、世界的に大きな学会で、ACL、TKAについての最新の報告を聞くことができました。もちろん発表は英語です。資料はなく、発表者の口述を聞きながらスクリーンに映し出されたスライドを見ます。分かってはいたことですが、その場で発表内容を正確に理解することは出来ず、語学力の無さを痛感しました。再度、発表内容を確認・整理し、正確に理解した上で、スタッフや患者さんにフィードバックしたいと思います。そして、語学の勉強を行い、頂けるチャンスを無駄にしないようにしていきたいと思います。また、外の世界を見たことで、自分自身の将来を考えるきっかけにもなりました。この経験をいかして、成長していきたいと思います。

阿部 康兵 理学療法士

今回、はじめて国外の学会に参加させていただきました。会場には、論文等でよく発表されている著明な方々ばかりで、会場内の雰囲気には圧倒されるばかりでした。また、発表も英語で行われていましたし、会場内では国際学会ということもあり、多くの方々が発表し、互いにコミュニケーションをはかり、たくさんの情報交換をしている姿を拝見し、より一層、語学力や学ぶことの大切さを再度認識しました。発表の中でもスライドを追いかけるのが必死でしたし、口述の内容をほとんど理解できなかったのも、とても悔しいです。TKAやACLについて何となく理解していた部分も、実際には理解できていなかったことに気づくこともありました。

研修期間中、外の世界を実際に経験させていただき、自分自身の人生まで深く考えさせられることも多々あり、自分の小ささを実感しました。

今回感じたことを伝えられるよう日頃の業務から取り組み、今回学んだことを患者さんにフィードバックしていきたいです。

このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。